

～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

第 72 号
2025・春



春号のテーマ 「わたしたちの地域づくり」

❁ 「女性たちの避難所リアル」を聞いて



主夫日記「地域の担い手どうしてる?」

❁ 「最初の一步」

「若者・女性の参画と地域社会の変化」

男女共同参画週間記念講演会
6/28(土)

13:00～14:30

講師:横山 由紀子さん

兵庫県立大学 国際商経学部 教授

場所:三木市立 中央公民館



「女性たちの避難所リアル」を聞いて

今年3月2日に三木市立中央公民館で行われた「家族で楽しむみんなの防災フェスタ」で、関西国際大学客員教授の斉藤容子さんによる「女性たちの避難所リアル」という演題での講演会が行われました。

「お菓子がもらえる防災〇×クイズ」や「子どもの防災お菓子バック」など子ども向けのイベントがあったこともあり、子育て世代のご家族がたくさんご来場されました。

そのため、斉藤さんの「実際の避難所ではどうなのか」というお話を熱心に聞いているお父さん、お母さんの姿が目立つ講演会でした。



斉藤さんは、令和6年（2024年）1月1日に発生した能登半島地震後、実際に被災地

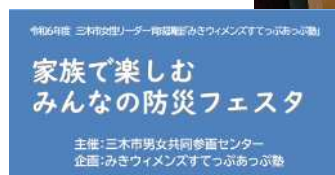
に入った経験から、避難所では段ボールベッドや段ボールの仕切りなど、阪神淡路大震災のころとは違うところもあったという話をされました。

けれども、「日本の避難所で特に女性にとって必要なもの」である、「安全性・安心感」「衛生的なトイレ」「必要な物資とその取り扱い方法」の3つがまだ不十分だと言われていました。

「子育て世帯は子どもが泣いたり、騒いだりすることで周りに気を遣い、避難所で過ごしにくいと感じている」、「避難所では性暴力、DVなどが発生するリスクが高くなる」、「衛生的なトイレを使用することが難しい」、「生理用品の配布方法への配慮が足りない」など、さまざまなお話をいただきました。また、トラックの荷台に置かれているトイレに行くのに梯子のような急な階段を使わないといけなかったことや、避難所でのトイレの使い方に困ったことなど、実際に被災地に行かれていたからわかる「トイレ事情」のお話もありました。

私は、「災害後に適切な支援を受けることはすべての人にとっての権利です」と言われていたのが

印象に残りました。被災者たちは、避難所



の設備を整えてもらう時や、救援物資を受け取る時などに「すみません」と申し訳なさそうにすることがあるけれど、「それは違う」と言われていました。「支援を受けることは被災者の権利」だそうです。

「ありがとう」という感謝の気持ちを持つことは大切だけれど、「面倒をかけてすみません」「迷惑をかけて申し訳ない」と思ってしまう今の避難所の状況を改善することも重要だというお話に、ハッと気づかされたような気がしました。

三木市には良い「避難所運営マニュアル」があると言っていました。避難所の運営というのは、「市民自らが主体となっていく」そうです。そのため、私たちもこの「運営マニュアル」を知っておく必要があります。けれども、市民の皆さんにあまり知られておらず、それが残念だと言われていました。「避難所運営マニュアル」は市のホームページに載っています。災害が起きてからマニュアルを読むのではなく、災害が起きる前に目を通しておくようにしましょう。

日頃からできていないことは災害時にはもっとできなくなります。年齢を問わず、普段からご近所さんや地区内での人とのつながりを大切にすることも、防災への備えではないでしょうか。

（編集委員：〇）

三木市避難所運営マニュアル
はこちら→





主夫日記「地域の担い手どうしてる？」

いつも主夫日記にお付き合いいただきありがとうございます。

年明けから3月くらいまでの期間は、自治会などの役員を決める時期ですが、みなさんの周りではスムーズに決まっていますか？

私の所属する団体は、子育て世代のお母さんたちと子どもたちのために活動しています。私たちの団体でも新年度の役員をなかなか引き受けていただけず、現役員さんが苦勞されていました。役員を引き受けてもらう交渉をしたり、その他の面倒なことをしてくださる方がいらっしゃることで活動を続けることができています。

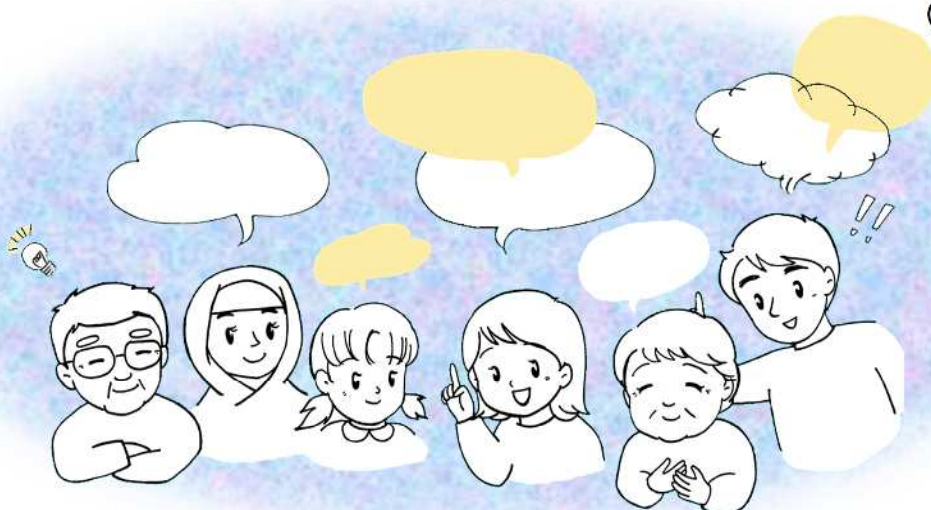
昨今、婦人会が無くなり自治会役員の担い手不足が問題になっています。担い手が不足する背景には、定年が伸びたこと、地域の関係性の希薄化、現役世代ではほとんどが共稼ぎ家庭となっていて従来の行事を担うことが難しくなっていることなどさまざまな要因があげられます。

地域で守っている行事やそのやり方は、専業主婦の協力が前提になっていないでしょうか？今の時代、共稼ぎ家庭がほとんどの現役世代には担うことが困難ではないでしょうか？

これからも地域の行事を残すためには、これからの担い手が無理なく続けられるよう、時代に合わせた変化や工夫が必要です。例えば、コロナ禍でオンラインの活用が進んだように。そのためには、現役世代の意見を取り入れることが大切になります。

私たち還暦世代のオジサンにできることはどんな事なののでしょうか？現役世代の女性にとって、私たち年配男性に意見を言うことはとてもハードルの高いことです。私たち年配男性は、現役世代の意見をもっと聞く努力をすることが必要なのではないのでしょうか。

(編集委員:I)



「最初の一步」

私が自分の住んでいる地域の自治会役員や男女共同参画センターの委員を始めたのは、当時の自治会長の方にかけていただいた「地域の活動に参加してもらって、様々な意見がでるようにしたい」という言葉がきっかけでした。



当時は、子育てや仕事など、自分の生活でいっぱいだったので考える余裕もなく「皆さんにご迷惑をおかけすることになってしまいます。適任の方をお願いします」とお断りしていました。会長からのお返事は、「自分の子どもの家族に自治会の役員の話をして同じ返事が返ってくる。理由もよく理解していますが、住みやすいまちづくりには、様々な年代、意見を取り入れていきたい」とのことでした。

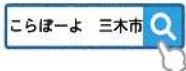
自治会の活動に参加させていただいて、自分の住んでいる町の良い点・課題がわかったこと、地域の方とのつながりができたことで安心感が高まりました。皆様と協力して課題について対応を継続することの大切さ、人の縁の大切さを学びました。住んでいる地域を大切に思う気持ちは皆同じ。

若い世代が自分の住んでいる地域に愛着、安心感が持てるようにするために、子どもの頃から地域の行事(防災訓練・廃品回収・夏祭り他)に参加できる機会を大切にし、故郷を思う心を育て、若い世代と一緒に「自然に参加型になっている」まちづくりができれば幸いです。(編集委員：T)



三木市男女共同参画センター
愛称:こらぼーよ

ホームページからも
ご覧いただけます



三木市福井 1933-12 教育センター3 階
TEL:0794-89-2331 FAX:0794-82-8120
開館日時:月曜～金曜 9時～17時(祝日を除く)

企画・編集:情報誌こらぼーよ編集グループ
発行:三木市男女共同参画センター

編集後記 《地域づくりの課題》

地域づくりにおける次世代の担い手をどう育てるか?これは日本全国で課題となっています。担い手不足が進行すると…次のような問題が考えられます。

- 地域防災・防犯機能の低下
- 生活環境の悪化
- 地域文化の衰退

どこかよそごとのように思われるかも知れませんが、あなたが当たり前のように感じている日常も、誰かの地域活動で支えられています。その当たり前がどの様に保たれているのかちょっと考えてみませんか?

(編集委員：G)